

NICE SMILE

2015
夏
VOL.62

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター●院外・院内広報

発行・責任者：広報・年報編集委員長 森朝 紀文 / 〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地の23 TEL072-469-3111(代) FAX072-469-7929
http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/



「夏の夜を彩る」

写真家 尾崎真一氏(阪南市在住)



南泉州地域の地域医療支援病院として



副病院長兼地域連携サービスセンター長兼
心臓センター長

永井 義幸



平成27年度が始まり、すでに三分の4か月が過ぎました。りんくう総合医療センターは地域医療支援病院として大阪府での2次医療圏、つまり貝塚市以南の泉州南部を支える急性期総合病院の役目を担うことを使命とし、また期待もされております。しかしながら残念なことに、消化器内科の常勤医は長く不在ですし、今年4月からは眼科の常勤医も不在になっております。緩和ケアを担う精神科の常勤医なども不在です。常勤医の確保のできていないところは関連大学や地元医師会のご支援を得て、応援医師としてですが主に外来・検査処置を担当いただいております。おかげさまで例えば消化器内科では、平日は毎日定期外来と内視鏡検査治療が対応できており、御協力御支援いただいております。関係の先生方、医療機関の方々には深く感謝いたします。

国の推し進める医療改革では、

今後ますます各医療圏ごとで急性期医療から慢性期管理、さらには介護まで完結できることを求めてきております。この医療圏で発生した患者さまを、各病院や医療・介護施設の機能や得意なところを活かして急性期から慢性期まで、さらには介護まで支えていく仕組みを、より実のあるものにしていく必要があります。従来、医療連携は主に患者さまの紹介や逆紹介を意図しておりました。当院の使命を果たすとともにこの地域の医療を守るために、現在当院もご支援いただいているように地域医療機関への人材の派遣なども今後の目標になってきます。医師だけでなく、看護・検査・事務などの専門職の人的交流がこれからの地域連携を進める大きな架け橋になります。

夏まつさかりです。体調をくずされませぬよう、ご自身の体調にもご留意されますよう、祈願しております。

CONTENTS

表紙写真 / 「南泉州地域の地域医療支援病院として」	1	部署紹介「血液浄化センター」「臨床工学科」	4
理事長メッセージ/MERS研修会/リハビリ講習会	2	連携施設紹介「松本内科胃腸科」「ドーム薬局」	5
ふれあい看護 / 緩和ケア研修会	3	「土曜リハビリ開始」「七夕まつり」「編集後記」「人権標語」	6



理事長メッセージ

医療は文化である

平成26年度の消費増税と診療報酬改定の影響は厳しいものでしたが、皆様方には引き続き当センターの診療、運営にご支援とご理解を賜り、心から御礼申し上げます。

西アフリカで猛威を振るい、欧米にも波及したエボラ出血熱は収束に向かい、今年の新たな脅威になった韓国のMERSもどうやら収束段階に入ったようです。海外への玄関口に位置する当院としてはとりあえず安堵している一方で、感染症との闘いは永遠の課題であると気を引き締めているところですよ。そして、感染症の治療や予防対策を考える上で、地域の習慣や文化が重要な要因になることを、再認識させられています。

近年における医学の進歩は目覚ましく、周辺技術の進歩と相まって新しい医療が次々と導入されていますが、「医学」は学問であり、真理追究の過程で事実として認定されれば、これは地域性や文化とは関連しない世界共通の価値観になりうるものです。それに比べて「医療」は個人や地域の価値観や生活習慣に対応して提供されるもので、一つの文化と言えます。

昨年は御嶽山の突然の噴火で多くの犠牲者が出ましたが、近年、我が国では、地震、火山噴火、台風、豪雨等々、自然災害が多いように思います。我が国の文化の背景に、四季のある豊かな自然と共に、この自然災害との果てしない闘いの歴史があるようですが、災害医療は20年前の阪神大震災を転機に大きく進化し、4年前の東日本大震災では、新しい文化が定着していることが示されたのではないかと思います。

海外での診療経験のある方などから「医療は文化である」と実感をもつて語られていることですが、同時に、医療は「新しい文化をもたらすもの」でもあると言えます。

泉州南部に、「地域完結型医療」という新しい文化を導入するために、職員が一丸となって尽力したいと考えております。今後とも益々、皆様方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

りんくう総合医療センター 理事長

八木原 俊克



南近畿呼吸リハビリテーションネットワーク実技講習会

平成27年6月27日(土)に当院研修棟において南近畿呼吸リハビリテーションネットワーク実技講習会を行いました。

近隣病院の理学療法士、看護師など32名が参加され、呼吸のリハビリテーションについての講義、呼吸介助の実技講習という構成で行われました。呼吸介助の実技では、受講者一人一人に丁寧な実技指導をされていました。受講者より見方が変わった、現場で実践出来そうなどの感想もいただき、とても有意義な講習会となりました。

リハビリテーション科 山川雅史

MERS研修会

2015年 6月8日(月)開催

中東呼吸器症候群(MERS)は、2012年に報告された新しい種類のコロナウイルスによる感染症です。2014年7月に、指定感染症と定められました。今回、韓国のMERS感染について、日本では全く発表されていない5月中旬に、感染症センター長 倭医師から「韓国でMERS患者発生」の英文ニュースの情報を頂きました。「韓国で感染拡大が起こるだろう」といち早く予測され、6月初旬に職員向けの研修会を開催しました。MERSは特別な病気ではなく、きれいに手を洗う、咳エチケットを行う、きちんと清掃を行うなどの感染対策ができていれば問題はないことを教わりました。MERSに限らず、どのような感染症も病気を正しく理解して冷静に対応することが重要です。



感染症センター看護師長
深川 敬子

ふれあい看護体験

当院では大阪府看護協会主催の「ふれあい看護体験」の受け入れを毎年定期的に行っています。今年も高校生を中心に4名のこれから看護師を目指す方々に病棟での体験をして頂きました。体験当日6月25日木曜日は、8階山側病棟と7階山側病棟においての体験となりました。初対面の挨拶を交わした後、不安を隠しきれない表情でオリエンテーションを受けていましたが、午前中を終了して休憩室に帰って来た時には満面の笑顔でした。と



でも興奮した様子で午前中に経験したことを話してくれました。高校生にとっては入院されている患者さんの日常を診ることや、患者さんに触れることそのすべてがあまりにも非日常であり驚きの連続であったようです。

今回は院内のスタッフの協力のもと、心臓カテーテル検査を血管造影室で見学することができました。感受性の高いこの年代の方は、衝撃的な映像を見るとリアリティーショックを受けて、気持ちが後退してしまうことがあります。しかし今回体験して頂いた方々は、どなたも「看護師という職業を改めて目指したいと思った。」「看護師になりたい気持ちを確認することができた。」と感想を述べてくれました。私たち看護師は次世代を育成することが大きな職務のひとつです。今回体験病棟となった部署の師長はじめスタッフとこの度の成果を分かち合い、また次の人材育成につながる取り組みを行っていきたいと思います。

副看護局長兼教育責任者 井出由起子



緩和ケア研修会

平成27年5月30日・31日開催

『りんくう緩和ケア研修会』は、がん診療に携わる医師が緩和ケアについての基本的な知識を習得し、治療の初期段階から緩和ケアが提供されるようにすることを目的としたもので、7回目の今年は、2月に新設しました「りんくう教育研修棟」の会議室を会場とし、5月30日・31日の2日間にわたり開催しました。

講義やロールプレイ、ワークショップ等を行い、2日目の研修会の最後には医師を含めた様々な職種の参加者が修了証書を受け取られました。

2日間、朝早くから夜遅くまでの長時間研修でしたが、参加者の闊達な議論や熱気で、今年度も盛況に終わりました。



① 部署紹介

血液浄化センター

血液浄化センター長兼腎臓内科部長 坂口 俊文

血液浄化センターは、腎不全に対する血液透析や腹膜透析を中心に、肝不全等に対する血漿交換、閉塞性動脈硬化症やネフローゼに対するLDL吸着など血液中から病因となる物質を取り除く治療全般を行います。

当センターは新たに透析導入、手術その他のための入院透析のみを行っており、外来維持透析は行っておりません。

透析装置は透析液を中央供給装置でベッドサイドの装置に送るタイプの装置が10台、ベッドサイドで透析液を作成する個人用透析装置が2台、計11台で最大10名の同時透析が可能です。オンラインHDFに対応した装置を導入しており、透析液も清浄な状態を維持できているため、必要な患者にはいつでもオンライン血液濾過透析(HDF)が可能です。

ICUにおいて、血液透析や循環動態が不安定な場合に適応となる持続緩徐血液濾過透析(CHDF)、エンドトキシシンシヨックに対するエンドトキシシン吸着、血漿交換等のその他の血液浄化も行っています。

血液透析の経過は3階血液浄化セン

ター内で、ICUでの透析も含めてリアルタイムでモニターが可能です。また透析経過はオーダーリングの画面からも参照可能なので、主治医が外来から透析経過を確認することも出来ます。血液浄化の他にも関連の治療として、シャント外来を行っております。これは近隣の維持透析施設で透析を受けておられる患者様が、シャント(血液透析を行うための動静脈吻合で、一般に前腕に設置している)の狭窄や閉塞となった場合受診していただき、パルンカテーテルによる経皮的血管形成を行ったり、手術で治療を行ったりするための外来です。

スタッフは医師3名、看護師4名、臨床工学技士専属1名その他1〜2名で頑張っております。



血液浄化センター スタッフ

② 部署紹介

臨床工学科

臨床工学科技術科長 河野 栄治

今年で臨床工学技士の最初の1名が当院に採用されたことから20年となりました。当初は週3日の透析業務、2日のカテーテル業務と緊急対応を行う事から始まり、20年経った現在、臨床工学技士は17名となり日々様々な業務に従事しています。

また業務範囲も徐々に広がり、当院での臨床工学技士の業務は呼吸関連業務(人工呼吸器セットやRS T回診)・心臓・循環器関連

業務(人工心肺操作・心臓血管カテーテル治療、ペースメーカー外来、電気生理検査)・血液浄化関連業務(血液透析やアフレーシス・集中治療領域における血液浄化・末梢血幹細胞採取)・機器管理関連業務(機器管理・保守・点検)など行っています。

このように業務範囲も広いため、当科スタッフが取得している専門認定制度や関連資格も多様です。

◆透析技術認定 ◆アフレーシス技術認定 ◆体外循環技術認定 ◆3学会合同呼吸認定 ◆不整脈治療専門臨床工学技士 ◆CDR(PM/ICD)関連情報担当者認定 ◆心血管インターベンション技師(ITE)認定 ◆医療機器情報コミュニケーターMDIC認定 ◆臨床ME専門認定士など各スタッフが積極的に取得し、また科内の学

習会だけでも年間に30回以上行い、幅広い業務に対応できるように日々頑張っています。

昨年から当直業務を導入し、より迅速かつ細かな対応を心がけ、また、今年開設された泉州南部卒臨床シミュレーションセンター「サザンウイズ」に置いても臨床工学技士が研修機器の管理等に携わっています。

臨床工学技士は症例によっては地域からの救急搬送、緊急手術、集中治療室への入室まで、時にはICU退室後のカテーテル検査や血液浄化業務等、一貫して係わることもあり、今後も専門性を高めると同時に幅広い経験・知識の取得を目指し研鑽し安心して安全な医療を提供できるように努力したいと思います。

今後ともよろしくお願い致します。



臨床工学科 スタッフ

りんくう医療ネットワーク 連携施設の先生のご紹介

連携施設の先生をご紹介しますコーナーです。当院では、「かかりつけ医」と連携し、地域ぐるみで質の高い医療サービスを推進しています。

医療法人

松本内科胃腸科

院長 松本 英一



昭和23年、泉南市新家生まれ。18歳で上京、30年間関東に在住。大学卒業後は消化器を専門とし、特に胃・大腸内視鏡検査を行っていました。平成9年1月故郷の泉南市新家で診療所を開設。現在は町医者として消化器のみならず高血圧や糖尿病などの生活習慣病の診療も行っていきますが、りんくう総合医療センターや近隣の病院・診療所の先生にご教示いただきながらが本音です。

当院の特徴といえば腹部症状のある患者さんは全て当日超音波検査、急性胃部症状や悪性腫瘍を心配される方には当日胃カメラ、また便に血が混じる血便がある患者さんは場合により当日大腸内視鏡検査、などのように当日に検査を実施することです。そのほか、腹部症状があり検査上明らかな異常がなく西洋薬で症状がなかなか改善しない機能性胃腸症の方には主に漢方薬を処方して

【所在地】大阪府泉南市新家3179-5

【TEL】072-485-2008 【FAX】072-485-2006

【診療科目】内科、胃腸科、放射線科

【受付時間】(午前)8:45~12:00 (午後)15:45~19:00

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	×	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	×	×

います。意外と即効性がありびっくりすることがあります。最近、休診日を利用して地域活動として認知症に理解を深めていただくために住民さん向けに白井病院の物忘れ外来の田中敬剛先生と一緒にWAO(W:忘れてもだいじょうぶ・A:安心と・O:思いやりの町)を目指して泉南地域の診療所の先生の協力を得て啓発活動を行っています。一緒に認知症について語り合いましょーう！ 皆さんの参加をお待ちしています。

りんくう総合医療センターには、この地域の医療を守る最後の砦として、更なる活躍を期待しています！



ドーミヨ薬局

薬剤師 道明 雅代



泉佐野市と熊取町で開局しています「ドーミヨ薬局」です。前身はクマトリ薬局という名称で、昭和24年から熊取町で開局し、地域の皆様の健康相談やセルフメディケーションに携わってきました。

先代の創業当時より「地域の皆様の健康に貢献できる薬局」を目指しています。

りんくう総合医療センターをはじめとした情報提供病院との診療情報を共有する『なすびんネット』にも参加させて頂き、調剤をしてお薬をお渡しするだけではなく、日々医薬品の適正使用、安心・安全な薬物治療に取り組んでいます。

昨今、健康に対するニーズがますます高まってきており、地域社会への積極的な参画、充実を図り患者さんに必要とされる「かかりつけ薬局」となるようにスタッフ一同頑張っています。

【所在地】大阪府泉南郡熊取町和田1丁目1-5

【TEL】072-452-8141

【営業時間】9:00~19:30

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	○*	○	○*	×

(*~17:00) (*~14:00)

また、超高齢社会の進展に伴い、在宅で療養される方も多くなってまいりました。

当薬局でも、近隣の医師・ケアマネージャー・訪問看護師さんなどと連携して在宅医療にも取り組んでいます。

りんくう総合医療センターで病薬連携した研修会も開催され、今月で第182回になります。これも薬剤部と薬剤師会の連携の賜物であり、今後も引き続き、このような薬薬連携とりんくう総合医療センターをはじめとする先生方のご指導を頂きながら、より一層、地域医療に貢献できたらと考えています。



土曜日のリハビリテーションを開始しました

リハビリテーション科は2015年5月より、リハビリテーション専門医1名、理学療法士18名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、事務員1名の部署となり、昨年に比べ大幅にセラピストを増員して頂きました。そして、2014年9月より土曜日の午前中のリハビリテーションを開始してまいりましたが、2015年6月より土曜日のリハビリテーションを一日体制とすることができました。土曜日のリハビリテーションでは理学療法士、



作業療法士、言語聴覚士を合わせて10名のセラピストが出勤して周術期の患者さんを中心に約100名の患者さんにリハビリテーションを提供しています。今後、2015年9月頃より日曜日の午前中にリハビリテーションを提供できる体制を構築していこうと取り組んでおります。そして、来年度には日曜、祝日を含め365日体制でリハビリテーションを提供できる体制を目指して取り組んでおります。

また、7階山側病棟において集団心臓リハビリテーションを実施できるように新たな取り組みを開始しています。これまでは、個別対応でのリハビリテーションを実施しており、集団でのリハビリテーションは業務の中でも特に経験の浅い領域となります。医師、看護師を中心に他職種の方々との連携がなくては安全に実施できない領域と考えますので、皆様ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

各セラピストとも安全かつ積極的なリハビリテーションを提供できるように努力してまいりますので、各診療科、各部署の皆様方におかれましては、ご協力ならびにご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

七夕祭り

外来看護師長 松井 美智子



毎年外来看護師が中心となり、ささやかではありますが、患者さんやご家族の希望や目標が叶いますようにと、笹に短冊を飾り付ける七夕のイベントをおこなっています。2階エスカレーター横に笹を設置し、可愛い飾りつけを行い、どなたでも記入できるように短冊を準備しています。通院されている患者さんや入院患者さんをはじめ、そのご家族やお見舞いに来られた方が、短冊にそれぞれの願いを込めて書きこまれています。

編集後記

各診療科、各部署の皆様のご協力によりNiceSmile2015夏号を無事発行することができました。この場をお借りして編集委員一同心より感謝申し上げます。

さて、2015年の介護保険改定ではマイナス改定と介護を取り巻く環境が厳しさを増してまいりました。来年度は医療保険の改定の年であり、2025年の地域包括ケアシステムの構築にむけた改訂が予想されます。そして、近年の改定では地域連携の重要性が徐々に鮮明になってきております。そのためにも、NiceSmileでは各診療科、各部署の皆様のご活躍、病院内での活動、業務の特色を多くの方々に知って頂くため皆様方からの情報提供をお待ちしております。そして、それらの情報が地域連携のお役に立つことが出来ればと考えます。

皆様のご意見を反映しNiceSmileをさらに充実して行きたいと考えておりますので、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

編集委員(リハビリテーション科技術科長) 藤野文崇

人権は
みんなが持つもの
守るもの

人権標語